

## 平成23年度第2回 地域ぐるみの教育推進委員会概要

日 時 平成24年3月6日(火) 15:00～16:45

場 所 小田原合同庁舎 2階 2B会議室

### 1 開 会

進行 佐藤委員長

### 2 「平成23年度第1回 地域ぐるみの教育推進委員会概要」について

○市民児童委員 → 主任児童委員 に誤字修正後、承認

### 3 議題

#### (1) 今年度の学校支援地域本部事業の成果について

資料1 スクールボランティアでつながる地域連携

資料2 チーフコーディネーターだより (No.7～No.10)

資料3 平成23年度「学校支援地域本部事業」の成果と課題

○資料1 『平成23年度優れた「地域による学校支援活動」推進にかかる文部科学大臣表彰』にて表彰となった鴨宮中学校区の、鴨宮中学校 松下教頭から説明

○質疑、意見

なし

○資料2 資料3 チーフコーディネーター 熊澤委員から説明

○質疑、意見

なし

#### (2) 子ども達を取り巻く今日的な課題について

資料

・子どもの学びと育ちを地域ぐるみで支えていく園・学校づくり—地域とともにある学校づくりについて—

・平成23年度 未来へつながる学校づくり推進事業 成果報告会

○委員長 資料をもとに説明

○質疑、意見

(佐藤委員長) 栢沼委員は、成果報告会に出席いただいているが、どういう感想をお持ちいただいたか。

(栢沼委員) 全体的に、各成果発表会は、学校の姿勢を地域へ投げかける

ことができていた。大会議室で行われ、多くの方が出席していたが、関係者だけであった。学校の頑張りや学校のスタンスを、学校関係者だけではなく、地域の方にも周知し、「相互協力・連携をしていく中で、子どもの学びや育ちについての取り組みをやっていこう」という教育観を、市民に広く周知をしてはどうか。学校や行政は、地域からの色々な苦情の窓口となり、本来子どもの教育に当てるべき時間を、親への対応に注いでしまっているという現実がありそうである。それを理解し、支援し、教育していく為に、地域全体で行っていることを、地域に幅広く、大々的に周知してほしい、と申し上げた。

学校の努力が、学校内の範疇だけでいつも終わってしまっている感じがする。たまたま、自治会や、小田原市自治会総連合の関係もしている関係で、自治会にはそういった情報が部分的にはくるが、市民に広く周知されず、伝わってこないことが、もったいなく、残念だという感想を持った。

(佐藤委員長) 当日、私も参加させていただいたが、栢沼委員がおっしゃられたように、地域の方に積極的に参加していただいているという印象を受けた。また、幅広い方々のご参加を、というお話だったが、実は市長からもそのようなご指示をいただいたので、来年度はもう少し工夫をしたいと思う。

井上委員、PTAの立場で、学校での運営を支えてきた中で、これから子ども達を、地域ぐるみでどう育てていくかについて、ご意見があればお願いします。

(井上委員) ソフトの面、ハードの面と両方ある。昨年3月11日に東日本大震災が起き、防災の拠点となる学校の備蓄・耐震、津波の心配の声がある。小田原は全体的に小・中学校が海沿いにあり、早川小学校などは古い校舎であるためである。要望はしているが、財政難の状況でなかなかできないとのことだ。しかし、学校は防災の拠点でもあり、子ども達もいるので、優先順位を上げてほしいという要望が強くある。

先日開催された県PTA協議会の防災の講演会で、国の女性の委員の方が防災頭巾は全く役に立たないとおっしゃっていた。実験の映像を見たが、頭に落下物が当たった場合、防災頭巾は、効果がなかった。その講演がきっかけで、PTAでヘルメットを買ったケースもある。科学的に効果が実証されていないものを子ども達になんとかかぶらせているというのも、気持ちだけの話になってしまう。ヘルメットと防災頭巾の違いが科学的にも証明されているのであれば、椅子の下にヘルメットを置けるような形にしてもらいたい。

また、東日本大震災の際に、レイプ事件が非常に多く起こったと聞いた。そういった際に、PTAはどういう役割ができるのか、地域の方がどうい

う見守りができるのかを含め、地域と連携をして、検討しなければならない。

また、教育については様々な2極化が言われている。神奈川県全体の中で、横浜市、川崎市、政令都市は、私立が非常に多いので、私立との競争が起きており、公立でも色々な取り組みをしている。西湘地区でも、もっと積極的に、そういった事例の良いところをどんどん取り入れ、学力、教育の水準を高めてほしい。

(佐藤委員長) 参考にさせていただきたいと思う。

津波の件についてだが、小田原市内で、海拔10m以下の学校は小中学校で全10校ある。そのうち、三の丸小学校は屋上がないが、残りの9校には、万が一に備えるため、今年度から来年度にかけて、屋上に避難できるように手すりの整備を進めていきたいと考えている。

続いて、橋本委員、地域や、小田原市子ども会連絡協議会の立場で、子ども達を指導等していただいているが、ご意見はあるか。

(橋本委員) 子ども会は、学校の問題となると、なかなか難しい。成果報告会の資料をいただき、感じたことが2、3あるので、率直に感じたことをお話する。

一つは、市役所の方も大変お忙しいとは思いますが、資料が多くあり、また、送付時期が直前すぎたので、もう少し早い時期に送付してほしい。

もう一つは、こういった問題については、学校だけでなく、地域や、小田原市にある色々な関連協議会の方々に実際にお話を伺えれば、書類で見るとより、より知ることができるのではと感じた。

もう一つは、信憑性はわからないが、ある中学校の、いじめや不登校などが小学校6年生の間で話題になり、できれば、来年、他校の中学校に行きたい、学区の中学校に入るのは嫌だという子がいた。そんなことはない話し、一応ご納得いただいた。中学校11校のうち4校は、不登校の問題を扱っているが、残る7校には不登校の問題は全くないのか。平成7年から8年の頃や、それ以前にも、長年同じような問題があり、それほど解決されていないと思う。一概には解決が難しく、色々なことがあるだろうが、子どもの中でそういう話題になっているということが、残念であり、どうかな、と思う。

当会議や、各育成団体が集まった協議会などで、どうしていくかについて指導していかないと、16年後もまた同じ話題になると思うので、ぜひやっていかなければならないと思う。こういった会を大事にして、広め、実態を色々な形で話をし、対応策について皆で取り組んでいかないと、いつまでもたっても解決は難しい、と感じた。

(佐藤委員長) 不登校についてご提案いただいた。西村委員、何かござい

ますか。

(西村委員) 不登校に関しては、22年度から、不登校対策支援モデル事業などで、少し大きく取り上げている。まずは数値目標的なところからスタートしたが、数値目標だけでは表せない部分もある。不登校を経験し、その後復帰しているお子さんもいらっしゃれば、不登校から復帰できない場合もある。

教育委員会としても取り組みを行っており、例えば、中学校の場合は全ての学校で、学級への復帰に向け、支援室あるいは保健室へ登校する、というところから行っている。授業の指導を直接行う先生ではない支援員が、教室に入れないお子さん達と学校との間に入り、学級へ結び付ける取り組みを行っている。支援室に人員を複数人数配置し、子ども達を支援室に迎え、学級へ誘い、教室までついて行くこともしている。

また、保護者で不登校に関わる経験を持たれている方や、委員関係をやられた保護者の方、お子さんと教室・担任の先生を結びつけるような役割を担う方を、不登校相談員という形で中学校4校に配置している。放課後以降に関わりを持つ以外の時間帯、例えば普段学級の指導をしている授業の時間帯などでは訪問するという事はなかなか難しい。その仲立ちをしてくださる、不登校訪問相談員について、現在は4名だが、来期はもう少し増やしていくなどして、地域的な配置を小田原市の方でも積極的に進め、ご家庭で引きこもってしまっているお子さんの対応策を考えていきたい。より良い形の支援について考えている最中である。特に積極的に取り組んでいる4校が成果報告会で発表しており、全ての学校が不登校未然防止の解消のための取り組みを行っている。また来期は、支援室3校を5校に増やしていく予定である。

(橋本委員) 不登校相談室の方というのは、どんな方なのか。

(西村委員) 直接的に不登校に関わられた保護者や、地域で色々な関係をお持ちの方などであり、全く不登校に関わっていなかったという方ではない。お子さんと色々勉強されてきた保護者の方に、アドバイスをいただいている。関係する保護者の方とお話ができ、少し後押しをしている。

家庭訪問は頻繁に行っており、今年度の場合、27名中13名は支援室まで足を運べるようになったと、データでいただいている。主任児童委員に関わっていただいている例もあり、学校や先生方だけでない部分で、支援をしていく必要はかなりある。

(久保委員) これから増やしていく、と理解した。不登校の子どもが多い学校から始めたのか。

(西村委員) その通りである。大体は、不登校の生徒が多い学校から配置をしている。もちろん、全校へ万遍なく配置できるようにと考えてはおり、

訪問相談員の配置や、支援室への複数職員の配置など、少しずつだが増員を考えている。来期は11中学校区中5中学校区位、複数人数体制、訪問相談員の複数配置ができる状況にはなっている。

(橋本委員) そういった制度や相談員、部屋があるというのは、その学校の保護者は知っているのか。

(西村委員) 基本的には「学校だより」などに、「支援室がある」と広報をしたりはしない。不登校のお子さんのご家族の方には、例えば担任から部屋の紹介を行うことから始めている。

教育相談については、学校は、「学校だより」などで、教育相談コーディネーターがいること、相談例、連絡先といった内容を周知している。支援室の所在については、あまり周知してないが、担任や職員の方で、必ず、保護者の方に呼びかけている。

また、中学校には、県からスクールカウンセラーの方が、県の予算で週1日派遣されており、小学校の保護者の方も相談できるようになっている。複数人数で、週2回くらい派遣されている学校もある。

小学校には、ハートカウンセラーの配置がされており、保護者の方の悩み事や子ども達自身の悩み事の相談に乗っている。

市教育委員会の、退職された校長先生などの3名の教育相談員に寄せられる2千件近くの相談のうち、不登校及び不登校支援の相談がほとんどである。学校とは別の、相談指導学級のマロニエ教室や城山教室といった、学校への復帰を目指しているお子さん達が通える場所があるが、そこに行くまでのステップとして、朝、お子さんと待ち合わせ、支援室まで行き、入ってもらおうという、通える状況を作ることも行っている。

(山岡委員) 特に中学生になると、親にも話したくない、自分の問題があると思うので、カウンセラーの話についてお聞きし、安心した。カウンセラーは各中学校にいられるのか。

(西村委員) 臨床心理士の免許を持っているスクールカウンセラーが、県から、週1回の割合で派遣されている。

もちろん、養護教諭もそういった役にはなるかと思う。評価をしない職員でもあるので、日常の悩みなどを、相談しやすいと思う。

(山岡委員) すごく大事だと思う。

(佐藤委員長) 続いて、山岡委員、資料では職場体験について報告しているが、いかがか。企業の立場として、子ども達の就業体験を受け入れていると思うが、何か話を伺ったことはあるか。

(山岡委員) 職場体験の対応に十分に慣れている先生と、新たに就任された先生とに、対応の差があり、困ることがある。同じ企業に、色々な学校から連絡が行ってしまうこともあり、できればまとめていただけるとあり

がたいと思う。中学生の場合、現実には「楽しかった」で終わってしまうが、やはり、働く場所を体験してもらうのはすごく大切だと思う。青年部組織でも行っている。要望があればこれからも対応していくつもりである。

(佐藤委員長) 学校によっては、連続した日程で就労体験させていただいており、企業側のご理解、ご支援がなければできないことだと思うので、よろしくをお願いします。

(山岡委員) 前回11月の会議録の、皆さんの意見としては、自治会を中心とした地域の行事に小・中学生が主役として一緒に参加できるシステムが大事だ、という意見が多かった。

今日の地域連携の話などは、紙ベースでしか見ていないが、見てみると、教育現場の方々の交流事業と勘違いしてしまう。先ほど栢沼委員からお話があったが、事業を行う時に「地域ぐるみで」という視点を常に意識していただけると、何か伝わるものが出るのではないかと思う。当然、実際には事業に地域が入ってくると思うが、紙面で見ると、教育現場の方々の交流事業なのか、という感じがしてしまった。

(佐藤委員長) 地域の行事などに学校ぐるみで出る活動で、意識をあげたいという学校もあると伺っている。そういった所は、地域の皆様方にご協力いただきたい。特に、商工会議所等については、地域全体を対象に、横断的に、色々なご支援をいただいていると思うので、そういった視点でのご支援をお願いしたい。

続いて久保委員、いかがでしょうか。

(久保委員) 民生委員児童委員協議会としては、例年通りの活動を継続中ではあるが、本日は、私が担当している、白山中学校の少年サポートチームの活動状況について報告させていただく。

白山中学校では、平成23年度始めから、一部の生徒の不良行動が散見するようになり、先生方が再三注意指導を行っていたが、なかなか改善されず、ついには教師に暴力するような行為までに発展してきた経緯があり、地域で色々集まり、検討はしていた。

そして、昨年、湯河原中学校から小林校長先生が赴任された。小林先生は、湯河原中学校の時に、少年サポートチームを立ち上げたそう。それに倣い、昨年、地域の自治会連合会、民生委員児童委員協議会、少年補導員、保護司、PTA、公開指導委員、小田原警察署、白山中学校のメンバーで、活動内容について話し合いをし、サポートチームを立ち上げた。

活動内容としては、月2回程度、登下校時に、関係団体の方々が集まり、生徒達に対して、あいさつ掛け声運動を行っている。それから、校内を巡回しながら掛け声を行う、ふれあい見守り活動を順次行っている。また、見守り活動として、校外を巡回して掛け声をかけたり、スポーツ交流会、

情報交換会をやったりしていこうとしている。

昨年10月からスタートし、今年の9月までの約束で、とりあえず1年間やってみよう、ということで、現在月1回活動中である。

私は、昨年10月から下校時のあいさつに参加しており、腕章をつけ、15人くらい立ち、「さようなら。」「気を付けてかえるんだよ。」と掛け声をかけてやってきた。

昨日も雨天だったが行い、最近では1年生から3年生側から「さようなら。」と掛け声が返ってくるような感じになった。これはだんだんいい方向になってくるかな、といったような印象を受けた。そういった活動を現在白山中学校でやっている。少しご紹介させていただいた。

(佐藤委員長) ありがとうございます。実は私も、個人的に、白山中学校区の青少年育成推進委員会に行っており、少年サポートチームの話は伺っている。おかげさまで最近子ども達に落ち着きが見えてきて、保護者も大変喜んでいて。ありがとうございます。

それでは、続いて、小澤委員さん、何かございますか。

(小澤委員) 私は、主任児童委員の、児童部会の方を担当している。この間改選があり、半分位新しい主任児童委員が入って来られ、活動を始めた。

昨年は3月11日の地震やその影響があり、例年の活動のようにはいかなかった。昨日、久々に、児童相談所との情報交換会を開催した。これからは主任児童委員同士連携を密にして、色々な情報交換を行いたい。先ほどお話のあった、不登校に対する対応の仕方について、新任の主任児童委員の中には、まだ分かっていない方が多く、また、地域によって情報の戴き方も違う。そういうことに関しては、情報交換が一番大事なので、学校と相談しながら行っていきたい。

主任児童委員を中心に、各地域に民生委員がおり、民生委員と主任児童委員は連携をしながら、生徒達の見守りなど必要な事をやっていきたいという、共通した思いを皆が持っている。

(佐藤委員長) 続いて竹村委員、若い実業家の集まりということで、青少年の子ども達を見守っていただいていると思うが、いかがか。

(竹村委員) 昨年度は、キャンプを行った。竹を切るところから始まり、父親達などと、カレーライスを作り食べた。日本青年会議所で行っている、家訓プログラムという、自分達の家の家訓を作ろうというプロジェクトがあり、夜に行った。

本年度は、地域の誇りを再確認する、小田原に生まれてよかったと思える、家族でよかったと思えるような、そういう誇りを持ってもらう活動を考えている。

そういう活動に参加される方の意識は、大分高い方である。もっと広い

範囲で募集をかけていきたいのだが、どうしても、参加される方の中心は、意識が高くはある。小田原駅から自分で歩ける方、と募集を行った。今年には特にはそれほど区切ってはいない。

(佐藤委員長) 引き続き、そういう活動を行っていくのか。

(竹村委員) 毎年引き続き行っていく。

(佐藤委員長) 続いて、榮委員、幼保・小・中一体話や、就学前が大事であるという話も出ているが、いかがか。

(榮委員) 小田原の保育園は、民間が圧倒的に多く、23園ある。公立は8園で、その内の一つは民間委託である。

保育園は、学区域がないので、他の市町村からも入ってくる。圧倒的に民間の保育園に通う子どもの方が多い。そのため、公立幼稚園のように地域性の強いことは、あまりできない。しかし、3%~5%程度の未就学児が、幼稚園か保育園で生活を送り、小学校に入るので、やはり、小学校との連携は、これからも強めていきたいと思う。また、中学校生も、数かなり限られてはいるが、職場体験がある。

もう少し、保育園に目を向けていただき、幼児との触れ合いの場を設けていただくようなことができればと思っている。

それから、資料「平成23年度未来へつながる学校づくり推進事業成果報告会」の中に、食育を取り挙げている学校がある。「食べる」ということは、幼児でも、小学生でも同じであり、食事をすることにより、良い体が育つので、そういった所にも目を向けていただければ、保育園でも、こういった取り組みにも参加できるようになると思う。

ところで、配布資料の「目的」の欄に、「小田原市内の公立各園・各学校」とある。公立各園というのは、おそらく、幼稚園を指していると思うが、やはり我々保育園は、ここに掲載されてこない。

「未来へつながる学校づくり推進事業成果報告会」で天笠先生がお話されたタイトルには、「園・学校づくり」とある。この「園」というのは、公立幼稚園を指しており、保育園は含まれないのかもしれないが、「未来へつながる学校づくり」ではなく、「園・学校づくり」という風に取り上げていただければ、より、幼稚園・保育園の、保護者の関心が向かってくるのではと思うので、その辺を考えていただければと思う。

(西村委員) 「未来へつながる学校づくり推進事業成果報告会」の「目的」に、公立各園・各学校で取り組んできたと記載がある件についてだが、小田原市教育委員会が委託をして、事業を行うための支援金をお渡しし、学校が主体となって実施している。実施主体者ということで、公立各園・各学校と書かせていただいているが、横のつながりで、保育園、幼稚園も関わっていただけるような事業名になっている。各中学校、小学校、保育園、



幼稚園の学校単位で関わっていただくような流れの展開を考えており、こういった表記の仕方をしている。

保育園の方にも見ていただいたと思うが、昨年度、幼保・小・中のパンフレットを作成した。私立、公立に限らず、子ども達を送り出すという、小学校のホーム監修というスタンスはこれから行っていかなければならないので、こういったような形で呼びかけをさせていただくようにご協力いただければと思う。

(榮委員) P T Aの場合は、幼・保中心だった。

教育と幼・保の一本建てで、ある面では教育的な事も関係するので、幼稚園・保育園も忘れないでいただきたいと思う。

(西村委員) いろいろお願いをさせていただくことが多いと思うが、よろしく願いいたします。

(佐藤委員長) 続いて、保護司会の乃美委員、お願いします。

(乃美委員) 特別用意してきた訳ではないが、保護司というのは、本来、社会との関わりは、むしろ控えているような状況である。ただ、最近はそういうことだけではなく、「非行のない、明るい社会を作って行こう」という目的から、7月を強化月間として「社会を明るくする運動」というのを行っている。これは全国的に行っているもので、総務省が提唱しているが、小田原市では、市長を中心とした、社会を明るくする運動推進委員会があり、7月に啓発運動を行った。

この前も触れたかもしれないが、酒匂では青少年育成推進員協議会と協力し、毎年、啓発運動を行っている。保健センターを使い、地域全体会を開いている。

今年のテーマの一つとしては、このような状況になったので、防災を中心にさせていただいた。市長に基調講演でお話いただき、その中で、災害時、地域が協力し色々な面に取り組む際に、中学生や西湘高校生のエネルギーを使わせてほしい、あるいは、そういうことを皆で共有した問題とし、取り組んでいこうと、大きな話題になった。

学校にも大変ご理解いただき、良い方向に進んでいる。

ご存じのように、酒匂地区は海辺であり、対策といっても特別なことはできない。高い建物はほとんどなく、30分以内でどこまで逃げられるかなど、お話すればきりが無い。

もう一つは、食育の問題だが、大変重んじて、行っている。どこの小学校や地区でも行っているかもしれないが、酒匂幼稚園で農作物を育て、調理し、皆でいただく、というようなことを行っている。「おだわらっ子約束」の中の、「朝ごはんを食べます」にも繋がり、大変いい成果を踏めるかなと思う。

(佐藤委員長) 平野委員、実際教育現場を預かっている一員として、色々ご意見があると思うが、ご意見がありましたらお願いします。

(平野委員) 皆さんからご意見をいただいて、なるほど、と思ったり、当校でも行っているな、と思ったりしながら聞いていた。

新玉小学校は白鷗中学校区になり、近隣の小学校は3校あるが、不登校に関して、白鷗中学校区のカウンセラーさんが、週1度来られるのを、毎月順番に小学校を回っていただき、子ども達の様子を見ていただいたり、担任が困っていることに対して相談に乗ってもらったり、担任の子どもに対する対応などについてアドバイスしていただいたりしている。不登校の子どもには、教室に入れない子どもや、支援室、教育相談室、保健室などの部屋に入るのも嫌がる子どももいる。人的増加を、という話もあったが、実際、当校では、人的な配置はなく、管理職を中心に、養護教諭や空いている先生でケアをしていくという計画を立てた。しかし、不登校の子は、色々な先生が立ち入るのを拒むので、現在は基本的に管理職中心に対応しており、教室に、一日のうち何時間か居られるようになっている。

また、新玉地区では、地域ぐるみで行う運動会、触れ合いスポーツフェスティバルがある。学校が主体となる運動会とは別で、地域が主体となる運動会である。子ども達は全員参加と、行事的なもので、5月に行っている。

広域防災訓練には、地区の関わりの中で子ども達も参加するなどしている。

それから、当校ではグラウンドを芝生化しており、地域の方にもご協力をいただき、芝生の維持に努めさせていただいている。現在、3年目という事で、芝生も安定し、芝生を中心に色々な人が集まっている。

芝生は、観光客の方が、緑がきれいだから入らせてくださいという事があったりして、放課後の子ども達や色々な方の、憩いの場となりつつある。それが、未来へつながる学校づくり推進事業でお話の合った、コミュニティの1つなのかなと思いつつながら、今後、維持管理をしていくのに、責任を感じているところもある。それから、ボランティアの方々には大変助けていただいている。

新玉地区では、グリーンプロジェクトを行っているが、芝生の譲り合いや、管理の部分でも、手伝っていただいている。今後もそういった形で、助けていただきながらやっていけたらと思っている。

前回、白鷗中学区では、小・中学校が同一目標で進んでいるという話をしたが、授業参観に関しても、各校、連絡し合い、希望があれば、自由に見に行くという事もしている。白鷗中学校区には、県立小田原総合ビジネス高等学校もあり、夏休みなどは、県立小田原総合ビジネス高等学校の特

色の情報教育を生かし、小・中学生に、パソコンの指導をしてもらっており、白鷗中学校区を中心として、触れ合いを行っている。

(佐藤委員長) 高校も交えて連携をしているという事ですね。ありがとうございます。続いて、熊澤委員、先ほどご報告いただきましたが、何か、付け足したいことはございますか。

あるいは、有賀委員、ご意見等ありましたらお願いします。

(有賀委員) 本年度は学校訪問を中心に活動を進めさせていただいた。幼稚園、小学校、中学校へ各合計25回訪問した。

主にボランティア活動の見学や、中学校区へ連絡会等への参加のお願いで訪問させていただいた。本年度より、幼稚園にコーディネーターが配属され、連絡会等を通し、コーディネーター同士のつながりや、ボランティアの共有などの成果は見られ、幼・小・中の連携は深まりつつあると思うが、共通の課題も見えてきたかと思う。

例えば、幼稚園から小学校、中学校へと、ボランティアの意識をどうつなげていくかである。園児は保護者が園に来ることをすごく喜ぶが、年齢が上がるにつれ、学校へ来ることに抵抗を感じるようになる。親の方も、仕事を持つ方が増え、また、小学校、中学校になると、授業に関わるボランティアが増えてくるので、ボランティアの数がだんだんと減っていく傾向が見られた。幼稚園では子どもと一緒にやるボランティア、中学校では子どもを見守る立場でのボランティア、と、幼・小・中の独自性を保ちながら、ボランティアの方自身のつながりを大事にしていけたらと思った。

それから、資料3の課題にもあるが、ボランティアの方の固定化や高齢化がある。ボランティアのメンバーの固定化は、活動内容の固定化傾向も考えられるので、多様な、幅広い活動を考える必要性を感じた。防災訓練や、地域を巻き込んだ活動を取り入れることで、子ども達の体験的な学習を増やしていけるかと思う。

事前配布資料「未来へつながる学校づくり推進事業成果報告会」に掲載のある活動の中で、いくつか活動を見学した。例えば、早川小学校の、森林体験学習だが、これは城南中学校区での取り組みになり、森林組合の方々との交流や、地域ボランティアの方々との交流などがあつた。前羽幼稚園の茶道教室、お茶会も見学した。これは、シルバー大学の卒業生の、学者クラブとの交流であつた。矢作幼稚園の運動会は、地元の中学生と交流を行っていた。

こういった色々な地域の教育力を取り入れた活動を増やしていけるようにして、地域ぐるみで関わっていければと思う。来年度も、中学校区の連携を密に、活動と一緒に頑張っていきたい。情報交換をし、中学校区、地域の中で、共有できるボランティアの発掘に力を入れ、地域力を生かし

たボランティア活動を進めていければと考える。

(佐藤委員長) 副委員長は、いかがか。

(小野副委員長) 本校は、配布資料「未来へつながる学校づくり推進事業成果報告会」の報告書の中で、不登校の事に関しては一行も触れていないので、紹介したい。

城北中学校では、3日以上続けて休んだ子どもがいたら、必ず家庭訪問に行っている。また、年に合計3回面談を行っている。そのうち2回は、1対1で、主に担任の先生と子どもが面談を行っており、残りの1回は、子どもの方から、担任以外の先生を指名でき、面談を行っている。

中学校に進級すると不登校がぐんと増加するが、学習が難しくなることや、友達関係が複雑になるなど、色々な要素がある。そのため、当校では、中学校入学予定者の小学生に、城北中学校での授業・生活体験をさせるなどしている。

また、学校の基本は授業なので、生徒は授業をきちっと聞き、先生方も、生徒の実態をしっかり掴み、生徒に分かるように、できれば楽しく教えるという、一番基本的な事をしっかりやる、ということは、実は、不登校対策の大きな力になるのではと、原点に戻って、色々な角度から検討しながらやっている。

また、Q-Uテストという、アンケートのようなものを行い、どの程度学級に馴染んでいるのかを見て、面談が必要だと思う生徒については、先生方が密接に面談をしながら悩みを聞くなど、かなりきめ細く見ている。

また、前回話したことと重なるが、未来へつながる学校づくり推進事業成果報告会でプレゼンをした内容を紹介する。

近くの桜井保育園の先生と4月に話をした際、東日本大震災のような地震が起きた場合、保育園には先生方20人位いるが、全員女手で、男手がほしい、という話があり、中学3年生は結構力がある、という話の中から、それならば保育園と一緒に避難訓練をしよう、という話になった。地震を想定し中学生が避難をして、自分達の安全を確保した上で、桜井保育園まで園児を迎えに行き、城北中学校の3階まで避難させるという避難訓練を行った。桜井保育園前の通りは、交通量が激しいところなので、自治会の方をお願いをし、安全確保について協力いただいた。

一番大きかったのは、中学生自身も、自分達は地域に必要とされている人間なのだという自覚を持てたことと、地元の人達も、中学生が、役に立つのだと感じられたことである。

夕方、中学生が5～6人で、公園に寄り集まっていると、必ず学校の方へ電話がかかってくる。そういった眼ではなくて、中学生は、頼もしい存在なんだ、という眼で、地域の人に見てほしい。

自治会の調査の中でも、中学生が頼りになるとお褒めをいただき、地元にとっても、中学生が役に立つという事にある程度の評価をいただけたのかなと思っている。中学生は力を持っているので、ぜひ、地元で活用していただけるとありがたい。放送部の子ども達は、アナウンスがとても上手なので、例えば、県民祭などの際にやってもらったりすると、大人よりも上手にでき、また、ライン引き作業も、本当に上手に引けるので、色々な面で、地元役に役立つような場面を作っていただけるとありがたい。

(3) 地域ぐるみの教育推進委員会の今後のあり方について

資料4 地域ぐるみの教育推進委員会設置要綱

○佐藤委員長から説明

○質疑、意見

(佐藤委員長) 委員会のあり方についてだが、私としては、このように、色々な立場の方々にお集まりいただき、それぞれの活動状況について、お話をいただき、意見交換をさせていただくというあり方が、十分な活用だと理解しているが、より発展させた取り組みのご提案があればお願いしたい。

(井上委員) この会は、これでよいと思う。市 P 連の副会長、会長として、市の色々な教育関係の委員会に出席させていただき感じたのだが、小田原市の教育関係の委員会の、全体的見直しをした方が良いのではないかと感じた。中には、かなり似ていることをやっているところもある。小田原市教育振興基本計画策定検討委員会や、「教育委員会事務の点検・評価」でも申し上げたが、各課同士の連携も必要であり、また、学校の抱えている問題で、市役所内各課で関わるが多くあると推測されるので、集約し、集約に基づいて政策を立て、我々 PTA や、学校、団体、地域にいきわたらせる、というようなことを、一回検討していただきたい。

(佐藤委員長) 大変貴重なご意見だと思う。確かに、連携について、我々も反省すべきところが多々あると思う。充分、検討してまいりたい。

ほかに、今後のこの委員会の進め方にご意見があればお願いしたい。

(栢沼委員) 学校の立場としては、なかなか難しい部分になるかもしれないが、問題提起したい。

幼保・小・中の学校間連携については、総じて、年々充実していると、よく聞くので、いいだろうと思う。

学校と地域の連携、という視点に立った時に、地域から学校へという部分では、スクールボランティアを核にした協力体制ができており、地域ぐるみという視点ではいいだろうと思う。

自治会側としては、土日や祭日などに、各青少年育成会等が行っているイベント事業などの地域の活動や地域の行事に、小中学生が、どのくらい関わられるかについて知りたい。

中学校で部活動に入っている子ども達は、部活動での対外試合があり、そちらに熱中するため、地域の活動に参加ができない。また、小学生は、子ども会やスポーツ少年団などで、土日、祭日と予定があり、地域に子どもがいない、という状況もある。

防災訓練は全25自治会で行っており、学校に呼びかけてはいるが、少ない数の子どもしか参加できない。

地域としては、色々な人とのふれあいや、地域の豊かな体験活動の中で関わる力をつけていきたいと思っているが、学校の方から子どもを提供するには、限界があるだろうと思う。この課題をどのようにクリアできるか、と思う。様々な理事会の中でも、話が出ている。一生懸命呼びかけているが、やはり、それには限度があり、なかなか難しいと実感している。学校の教育課程の範囲の中へ、地域の行事を移行し、学校という場で、そういう機会を持てばいいのだが、それだと、地域の活動という意味がない。その辺りを、今後、どういう風にしていったらいいかというのを悩んでいる。

今年、職員や、子ども達、障がいを持っている方々に、避難訓練に参加してもらったが、やはり、一握りの子ども達であった。

小田原市全体の連合自治会、あるいは単位自治会では、防災など色々な地域行事活動を展開しているので、より多くの子ども達に参加してほしい。ほとんどの行事は平日ではなく、土日、祭日で行われている。しかし、小・中学生が、スポーツ少年団など色々入っていると、こちらのイベントにはほとんど関わらず、そちらを優先してしまうので、そこが非常に難しい。

今日は、講演会の途中で抜け出してきたが、その講演会では損得の考え方で物事をやってしまうと、だめだという話であった。例えば、親御さんが、親は学校に子どもを預け、様々な経費のお金を支払っているから、学校は子どもの成績を保障すべきである、というような、塾と同じ考えを、学校につきつけてくると聞く。あくまでも、損得、利益の関係で、最近の親御さんは、学校、行政に対して、そのようなことを求めるようだが、違うだろう、と考える。そういうことも、今後、課題であると考えた。

総じていえば、自治会を含めた地域活動を色々展開しているが、地域の子供達が多くなかなか集まってこないというところが、一つの大きな課題である。単に参加型ではなく、大人と一緒に、仕事に責任を持たせ、やってもらおうことを目指しているが、学校は本来の目的で教育活動を展開しているので、学校の教育事情の心配もあるし、そうすると、やはり、土日、

祭日などで、展開したらいいのかな、という風な思いがあり、そこが自分では、すっきりしない思いがあり、どうしたらいいか悩んでいる。

(佐藤委員長) ありがとうございます。ほかに、ご意見がありましたら、ご発言をお願いします。

(山岡委員) 私は、学校評議委員をやっているが、基礎学力が身につけていない生徒がすごく多いと思うので、基礎学力を、学校教育だけではなく、地域ぐるみの中で何かできることはないのか、という事を話し合いできればと思った。

掛け算ができない高校生が随分おり、なぜそうになってしまうのかと思う。また、職場に入っても、できないままの子どももきついているのだろうな、と思う。そうすると、社会の中で色々な問題が起きてしまうと思う。一つの科目ができないからといって進級させないというのはいり得ないことだが、ただ、基礎学力が身につけていないということは、ものすごく色々な場面に出てくる。

(佐藤委員長) 確かに、ある意味では、大きな社会問題の一つかもしれない。ありがとうございます。ほかにはよろしいでしょうか。それでは、大分時間が押してまいりましたので、以上を持ちまして、終了させていただきますが、何か、事務局の方からありますか。

#### (4) その他

##### ○特になし

(西村委員) 未来へつながる学校づくり成果報告会についてだが、来年度も実施させていただく。会場について、今年は市役所の大会議室で120～130名の方にお越しいただいたが、来年度については、現在、会場を設定しており、今年度よりも大きな場所を設定し、市民の方にも広報させていただくような形で、進めさせていただきたいと考えている。

また、ホームページ等では、今回の、成果報告会の様子や、各学校の様子を発信させていただき、PR させていただくように、また、地域の方々が、これだけ関わっていただいて、学校の学習活動のご支援をいただいている旨を、報告させていただきたいと思っている。また、教育の課題の中で、学力というのは、もちろん非常に大切な部分で、お力をお借りしたいという風に思う。

これまで、学校の方でというよりも、ご家庭や、地域の部分で行っていた、規範意識の部分や学習習慣の問題などの課題的なものを、今、学校が抱えているという状況が、課題になるのではと思う。その結果、先生方が、

様々な部分で背負っているという状況がある。そういった部分について、まずは、ご家庭の中で、また、地域の中で、少しでも子ども達を支えていただく部分が大きくなればと思う。まずは、授業や指導をし、学力を伸ばしていくことは、教育の基本線である。もっとも、並行でやっていけば、より、未来の子ども達のためになるのかなと思う。今後、各団体の代表の方々にお越しいただき、例えば、不登校の問題や、先ほどの学力の問題、児童生徒指導の問題など現時点の問題を挙げていただきながら、学校の方でも支えていただくような話し合いをしていただけると、今後の子ども達の育成に関わることは、効果的な取り組みになるのかなと思っているので、まずは、ぜひご協力をいただき、支えていただければと思う。よろしくお願ひします。

(佐藤委員長) それでは、以上を持ちまして、第2回地域ぐるみの教育推進委員会を終了させていただきます。委員の皆様におかれましては、1年間どうもありがとうございました。ぜひ、来年度も、ご指導・ご協力をよろしくお願ひします。

#### 4 閉会